

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住東口専売店
Tel.5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

パーキンソン病をご存知ですか。荒川区パーキンソン病友の会（睦美会）

「パーキンソン病患者は、全国で十六万人（推定）います」（厚生労働省発表）

永六輔さんが七十七歳で発症したパーキンソン病は指定難病です。

難病は、治療が困難で慢性的経過をたどり、本人・家族の経済的・身体的・精神的負担が大きい疾患です。

パーキンソン病は二百年前の一八一七年にイギリスのジェームズ・パーキンソンが発見した病気です。高齢になると発症率が増え、六十五歳以上では百人に一人発症している病気です。五十歳以上で発症します。四十歳以下で発症の方は、若天性パーキンソン病と呼んでいます。

発症の原因は中脳の黒質ドーパミン神経細胞が減少です。

ふるえ（振戦）、筋強剛（筋固縮）、動作緩慢、姿勢保持障害が主な運動症状です。他に非運動症状として便秘や頻尿、発汗、易疲労性（疲れやすいこと）、嗅覚の低下、起立性低血圧（立ちくらみ）、気分が晴れない（うつ）、

興味が薄れたり意欲が低下する（アパシー）などの症状が起こることがあります。

治療法としては、薬物療法、手術療法、脳深部刺激療法、デュオドーバやIPS細胞移植法、遺伝子治療など研究中の治療法を含めた治療法がありますが、それぞれ並行してリハビリなどが適正に行われる必要があります。しかし、完治はできません。

「ひとりで悩まないで」

荒川区パーキンソン病友の会は、パーキンソン病患者が一人で悩んだり、地域で孤立しないように患者・家族および支援者と共様な活動をしている自助グループです。会員は二十一名おり、六十〜七十代の方が在籍しております。

入会すると自動的に全国及び東京都支部のパーキンソン病友の会の会員となります。東京都の会員数約八百五十名、全国の会員数は約八千名です。（平成二十九年四月現在）

「定例会の見学から」

入会する前に定例会の見学ができます。月一回の定例会（原則第二火曜午後一時三十分〜四時）は、アクロスあらかわで開催しております。会員相互の情報交換やリハビリ体操、各種レクレーション活動を行っております。同じ状況にある方との繋がりを持つことで気持ちも前向

きになれる会です。

年会費は五千円（内訳 荒川区友の会 千三百円、東京都友の会 二千二百円、全国パーキンソン病友の会 千五百円）です。入会見学のお問合せは荒川区パーキンソン病友の会事務局まで（Tel.03-3800-5916）連絡ください。

「病気に負けない」

五年前にパーキンソン病の七十代男性に会いました。「リハビリだよ。」と自宅の前を不安定な歩行で杖をつきながら、何往復もされていた姿が脳裏に残っています。何もできないもどかしさを感じました。パーキンソン病を理解し寄り添うことは大事ななと思います。掲載致しました。

十一月十八日（土）に順天堂大学名誉教授水野美邦先生のパーキンソン病患者の個別相談会があります。詳細は十一月十一日号の荒川区報に掲載されます。

個別相談会開催

日時 平成二十九年十一月十八日（土）

午後二時〜四時三十分

場所 アクロスあらかわ

定員五名（無料）

お問合せ 荒川区役所 障害者福祉課

Tel.03-3802-3111

（内線）2692